

## 放っておけない人

石井 雄吉 (明星大学心理学部心理学科 教授)

黒岩 誠先生には2001年4月に、当時の明星大学人文学部心理・教育学科心理学専修(現:心理学部心理学科)・人文学研究科心理学専攻の教授として着任して頂きました。心理学専攻は、1999年頃から、臨床心理士養成大学院の1種指定を受ける準備を進めていたのですが、指定を受けるために必要な臨床心理学分野を担当する教授職という要件を満たしていませんでした。筆者は、臨床心理学における大御所のお一人であった木村 駿先生の後任として、明星大学の臨床心理学を引き継いでいましたが、当時はまだ助教授でありこの指定を受けるための要件に達していませんでした。

黒岩先生に来て頂いたお陰で、当専攻は多摩地区で初めて臨床心理士を養成する大学院としての1種指定を受けることができました。1種指定というのは、学外のクライアントを対象とした心理相談の実習を大学院生が行える有料のクリニックを備えていることが条件となります。本学の場合は、明星大学心理相談センターがそれに当たります。実は、ここで問題が発生しました。この事件は、既に時効となっているエピソードですし、筆者にとっても他人事ではなかったので、紹介しておきましょう。

臨床心理分野の教員は当然黒岩先生に初代の心理相談センター長となって頂く予定でしたが、一般心理学分野のある教授も相談センター長に立候補する事態となりました。認定協会へ照会したところ、「相談機関の責任者は臨床心理士資格が必須ではない」との回答であったので、それがまたこの問題を複雑化させました。そこで、ついに当時の学長の前で、両候補がセンター長としての所信を述べることになりました。

筆者は、心理相談センター開設準備スタッフとして、同センター内規の作成や認定協会への説明などに関わってきた経緯から、この学長を前にした所信表明の場に黒岩先生の推薦人として同席しました。しかし、結局、すぐには結論が付かず、最初の心理相談センター長は学長が兼務することになりました。その後、黒岩先生が相談センター長に就任したのは翌年の2002年になり、2008年3月まで、計6年間に渡りこの役を務めて頂きました。その4月には、総合健康センターの初代のセンター長に着任されています。

実は、黒岩先生の一番やりたかったことは、この総合健康センターであったようです。大学への進学率の高まりに伴って、今、大学には様々な人が入学してきます。その中には、心理的な面でのサポートを必要とする学生も少なくはありません。しかしながら、そのような彼らは、卒業に至らずいつの間にかいなくなっているのが現状です。黒岩先生は総合健康センター長として10年間この問題に取り組んでこられました。黒岩先生によると、システムとしてはまだ十分ではなく、まだまだ取り組まねばならない課題も多いそうです。しかし、こころの問題に対応した学生支援を拡充した黒岩先生の功績は明星大学にとって大変に貴重なものです。

さて、心理学科における黒岩先生の業績は、学生指導における自由度の高さ、言い換えれば、懐の深さにあります。ですから、学生もその点をよく理解しており、黒岩ゼミは常に学生が希望するトップグループにありました。つまり、黒岩ゼミは、他の専門性が明確なゼミに馴染まない学生の受け皿となってきました。そのお陰で、他の教員も大いに助けられてきました。とは言っても、就職に関して言うと、黒岩ゼミ生はけっこうよい結果を出しており、有名企業への就職も少なくありません。心理学部心理学科は、2018年度から、いわき明星大学より2名の教員をお招きして、専任・常勤教員合わせて14名体制となりますが、これまで黒岩先生が受け止めて下さっていたような学生に対して、とかく専門性に囚われがちな教員でどのように対応していけばよいのか不安がよぎります。

本稿の終わりに、黒岩先生の研究業績について触れておきましょう。黒岩先生は、研究業績や所属学会をみて下さるとわかるように、本学着任前からアセスメントに関する研究に熱心に取り組んでおられました。しかし、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被災地となった岩手県田野畑村における復興支援の実践を通じた被災者支援研究は注目に値します。なぜ田野畑村なのかと言うと、ご出身の早稲田大学と岩手県田野畑村とのご縁からであったようです。

筆者も、宮城県石巻市や女川町で被災者支援活動に参加したので、その苦労の実態はいくらか承知していますが、黒岩先生の凄いところは、自ら支援活動を組

織して、しかも、その活動と研究を結びつけて科研費まで獲得している点です。さらにその活動は、本学のボランティアサークルとして現在まで受け継がれているのです。

このように、黒岩先生の軌跡を追ってみると、まさに「放っておけない人」なのだということがよくわかります。たぶん、本学を退職された後も、「放っておけない人」として、あっちこちにちょっかいを出して歩き回ることでしょう。楽しみにみております。

## 黒岩誠教授 経歴と業績

### 学歴

- ～ 1974/03 早稲田大学 教育学部 教育心理学 卒業
- ～ 1976/03 早稲田大学 文学研究科 心理学 修士課程修了 文学修士
- 1991/03 (学位取得) 東邦大学 医学博士

### 職歴

- 1976/04 ～ 1977/03 東邦大学 医学部 非常勤講師
- 1977 ～ 1985 東邦大学 医学部 助手
- 1985 ～ 1994 東邦大学 医学部 講師
- 1994 ～ 2001 東邦大学 医学部 助教授
- 2001 ～ 明星大学 教授
- 2001/04 ～ 2010/03 明星大学 人文学部 心理・教育学科 (心理学専修) 教授
- 2010/04 ～ 2017/03 明星大学 人文学部 心理学科 教授
- 2017/04 ～ 明星大学 心理学部 心理学科 教授

### 論文 (2001 年以降, 抜粋)

- 2014 被災地支援におけるアクション・リサーチのプログラム評価をめざして (共)
- 2013 田野畑村の今ここで (単)
- 2012 「いま, ここで」, 田野畑村が必要とする包括的支援ーチーム「バラ作戦」の試みー (共)
- 2012 田野畑村におけるお手伝い (共)
- 2011 青少年の居場所感と相談資源ーひきこもり心性の視点から (共)
- 2010 日本人が訴える肩こりの特徴についてー欧米における neck pain との比較ー (共)
- 2009 学生相談における学内連携の実態 (共)
- 2007 外来患者の主観的健康統制感・主観的病状が医療者へ求める説明に与える影響について (共)
- 2008 「生」および「死」のイメージと自己存在感の希薄さの関連性 (共)

### その他 (2001 年以降, 著書・教科書等抜粋)

- 2008 心理学に興味を持ったあなたへー大学で学ぶ心理学 (共)
- 2008 大学における社会貢献・連携ハンドブック: 新しい学びの広がり と 心理学的支援活動の実際 (共)
- 2009 進路適性検査 わくわく (共)
- 2009 子どもの育ちを支援する教育相談の考え方・進め方 (共)
- 2010 テキスト 現代心理学入門 進化と文化のクロスロード (共)
- 進学適性検査 GAKUTAN (共)
- 2010 NSI 看護職ストレスサーインベントリー (共)
- 2012 スタート: 新入生のための生徒理解調査 (共)
- 2012 スタートプラス: 生徒の成長がわかる調査 (共)
- 2013 社会人基礎力・職業適性診断キャリアステップ (共)
- 2015 みるみるわかる心理アセスメント～やわからか心理検査集～ (共)

### 所属学会

- 1982 ～ 日本心理学会
- 1983 ～ 日本教育心理学会

1985 ～ 日本進路指導学会  
1988 ～ 日本健康心理学会  
2000 ～ 日本心理臨床学会  
2005 ～ 日本精神衛生学会

#### 社会貢献活動

1998 ～ 2003 日本教育相談研究会 理事  
2001/04/01 ～ 2015/03/31 東邦大学医学部遺伝子解析研究倫理審査 委員  
2008/04/01 ～ 日本精神衛生学会 理事  
2009 ～ 2011/12 (財)実務教育研究所 理事  
2015/04/01 ～ 医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院 倫理審査委員会 委員